

昭和十三年六月

肝屬川改修計畫概要

D1

47

肝屬川改修計畫概要

肝屬川ハ鹿兒島縣二大重要河川ノ一ニシテ、幹川肝屬川ノ外串良川、高山川、始良川等ノ支川ヨリ成リ、之等幹支川ハ其ノ源ヲ高隈山脈及ビ肝屬山脈ノ諸峰ニ發シ、上流部ハ峡谷及狹長ナル河成平野ヲ流下スルト雖モ、下流部ハ肝屬郡ノ沃野ヲ貫通シ波見港ニテ有明灣ニ注グ、此ノ流路延長百五十拾杆ナリ。

本川沿岸ハ耕地面積五千「ヘクタール」ニ達スル鹿兒島縣唯一ノ沃野ニシテ、氣候又溫暖ナルヲ以テ各種農業ニ適シ、牧畜業、水産業亦盛ニシテ鹿屋町、高山町及串良町ハ物資ノ集散地ニ當リ、省線古江線並府縣道ハ流域内ノ主要交通網ヲナス。

本川ハ肝屬平野ヲ貫流スルヲ以テ、沿岸約四千三百「ヘクタール」ノ耕地ハ其ノ灌溉用水ヲ本川ニ求メ、又始良川合流點以下ニ於テハ舟楫ノ便ヲ有シ、河口ノ波見港ハ船舶ノ出入尠カラズ、斯如沿岸民ノ本川ニ負フ所極メテ大ナリト雖モ幹支川共河積狹少ニシテ中水ヲモ流下セシムルニ足ラズ、流路ハ屈曲著シクシテ流水ノ疏通ヲ阻ミ、且ツ沿岸殆ンド無堤ナルヲ以テ洪水ノ氾濫著シク、出水毎ニ全平野水底ニ沒スルノ慘狀ヲ呈ス、加フルニ大正三年櫻島爆發ニ際シ、鹿屋川及串良川上流ニ於テハ降灰夥シク河床ヲ上昇セシメタルヲ以テ、洪水ノ被害愈著シク大正六年六月ニ於ケル水害ハ最激

甚ヲ極メタリ。

二

茲ニ於テ申良川及鹿屋川沿岸民ハ改修工事ヲ企圖シ、申良川ハ工費五拾貳萬七千圓ヲ以テ大正十一年五月ニ、又鹿屋川ハ工費七萬七千圓ヲ以テ大正十年三月ニ各其ノ完成ヲ見タリ。

然ルニ兩川共河積狹少ニシテ未ダ最大流量ヲ流過セシムルニ足ラザルノミナラズ、其ノ他ノ幹支川ニ對シテハ何等治水工事ヲ施行シタルモノナキヲ以テ、年々大小ノ水害ヲ被ラザルナク、沿岸民ハ洪水ノ脅威ヲ感ズルコト痛切ニシテ、多年本川ノ改修ヲ切望シテ止マザリシガ、政府ニ於テモ其ノ必要ナルヲ認メ遂ニ昭和十二年度ヨリ本改修工事ニ着手スルニ至レリ。

今調査資料及計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ。

- 一、流域面積 全流域 四八五平方籽 ・内地 三一五平方籽
平地 一七〇平方籽
 - 一、灌漑面積 全流域 四、三一八「ヘクタール」 改修區域内 三、〇九八「ヘクタール」
 - 一、水害面積 全流域 四、一八六「ヘクタール」 改修區域内 三、一五一「ヘクタール」
 - 一、水害損失額 自大正九年
至昭和四年 一〇ヶ年平均 一七三、六四四圓
- 最 大 昭和四年 四九三、二八二圓

一、改修區域

- 幹 川
- 支川串良川 右岸 鹿兒島縣肝屬郡始良村 以下海ニ至ル 一一籽
 - 支川高山川 左岸 鹿兒島縣肝屬郡東串良町 以下肝屬川合流點ニ至ル 八籽
 - 支川始良川 左岸 鹿兒島縣肝屬郡高山町 以下肝屬川合流點ニ至ル 三籽
 - 支川始良川 右岸 鹿兒島縣肝屬郡始良村 以下肝屬川合流點ニ至ル 二籽

一、改修計畫

本改修計畫ニ於テハ幹川及高山川沿岸ハ從來殆ンド無堤ナルヲ以テ、其ノ兩岸ニ新堤ヲ築設シテ洪水ノ氾濫ヲ防止スルヲ主眼トシ、流路ノ屈曲著シキ箇所ハ新川ヲ開鑿シ、又串良川ニテハ矮少ノ薄弱ナル舊堤ヲ擴張シテ破堤溢水ニ備フル外、在來幹川ヲ利用シテ合流點ヲ引下ゲ、始良川ハ大体現在ノ河狀ニ委ネ右岸ニ新堤ヲ築造スルモノトス、而シテ幹支川現在河道ハ極メテ狹少ニシテ中水ヲモ流下セシムルニ足ラザルヲ以テ、掘鑿ヲ施スト共ニ有堤部ニ於テハ引堤ヲ併用シテ所要ノ河積ヲ與ヘ以テ洪水ノ快疏ヲ計ラントス、尙流路ノ屈曲著シキ部分及掘鑿箇所ニシテ河岸崩壞ノ虞レアル部分ニハ護岸ヲ施シ、堤防及河岸ノ安固ヲ期スルト共ニ河身ノ移動ヲ防ギ、又新水路ニハ床固ヲ設ケテ河床ノ著シキ低下ヲ防止セントス。

一、計畫洪水量

幹 川 每秒七五〇立方米乃至一、二〇〇立方米

支川串良川 每秒五五〇立方米

支川高山川 每秒四〇〇立方米

支川始良川 每秒三五〇立方米

一、計畫河幅 幹川一一〇米乃至三〇〇米、支川串良川七〇米乃至一〇〇米、支川高山川六〇米乃至七〇米

一、計畫堤防 幹支川共天端幅五米、表裏兩法二割

高山川合流點以下ノ幹川ハ天端幅六米トシ、各川共適當ナル裏小段ヲ附ス、計畫高水位上ノ天端餘裕高ハ一米ニヲ標準トシ高山川合流點以下ノ幹川ニ於テハ一米五トス。

一、掘鑿土量 二、五九〇、〇〇〇立方米

一、築堤土量 二、〇三〇、〇〇〇立方米

一、改修工事費三、七八〇、〇〇〇圓 内 國 費 二、四六五、〇〇〇圓 地方費 一、三一五、〇〇〇圓

一、工事期間 自昭和十二年 至昭和二十五年 一四ヶ年

一、改修ノ効果

(イ)、從來水害ニ苦シミタル改修區域内四ヶ町村ノ耕宅地二千八百七拾「ヘクタール」

ル」ノ水害ヲ除キ、又上流ノ耕宅地七百七拾「ヘクタール」ノ浸水モ著シク輕減セラレ、從テ年々ノ災害復舊費及耕宅地其ノ他ノ諸損耗ニ基ク水害損失ヲ免ル、ノミナラズ、農産物ノ生産額ハ著シク増加ス。

(ロ)、從來殆ンド毎年浸水ヲ見タル沿岸主要部落ハ其ノ被害ヲ除カル、ヲ以テ、交通杜絶並各種商工業休止其ノ他ニ因ル損害ヲ免ガレ、商工業ノ發達及文化ノ開發ヲ促スコト大ナリ。

(ハ)、河道ノ擴張並新川開鑿ニヨリ洪水ノ疏通良好トナルノミナラズ、其ノ停滯期間ヲ短縮スルヲ以テ沿川土地ノ惡水排除良好トナリ、從テ卑濕地ノ改良ヲ促スコトヲ得。

(ニ)、道路ノ發達全カラズシテ交通極メテ不便ナル當地方ニ於テハ、連續セル改修堤ハ道路ニ利用セラレ地方交通ニ資スルコト大ナリ。

(ホ)、運輸及交通機關ノ安全、各種産業ノ發達、衛生状態ノ改善等沿岸住民ノ受クル利益莫大ナリ。

昭和十三年六月

内務省下關土木出張所